

茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校

研究テーマ：つながりから生まれる学びを創り出す授業実践

～主体的、対話的で深い学びの実現に向けて～

1 実践の目的

「つながりから生まれる学び」を本校の研究テーマに設定してから数年経つ。本校では、子どもたちが学ぶことへの興味や関心を持ち、主体的に学習に取り組む姿や、友だち同士の聴き合い、認め合いの中から協同的に学びを創り出す姿を長年追究してきた。一方で、研究を一層深めていくためには、子どもたちの「つながりから生まれる学び」の“姿”をより具体的にイメージすること、そして、つながりを「創り出す」ための教師の手立てやねらいをより明確にさせていく必要性を感じている。そこで、テーマの内容を見直し、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」という副題を追加した。

2 実践の内容

(1) 校内研究の体制

今年度、年3回の全体研究と、低・中・高に分かれた年4回のブロック研究を実施した。全体研究では、東京大学大学院の藤村宣之教授をお招きし、藤村宣之教授の提唱される「導入問題」・「協同探究」・「展開問題」という授業展開や、本校の研究テーマと関連する授業づくりについて、ご指導・ご助言をいただいた。本校の授業研究では、事前の指導案検討会の段階で、導入問題（主発問）の検討、子どもたちの発言の想定から、本質に迫るための「切り返し発問」、個に戻す「展開問題」などについて議論をしていった。

(2) 研究授業の様子

年3回の全体会では、子どもたち全員が話し合いの土台に乗り、一人ひとりが意見を持てるような導入問題を考え、探究課題に迫れるような、教師の手立てを工夫しながら、実践を行った。

6月には、第6学年社会科「武士の始まり」の授業を公開し、「武士はどうして力をつけたのか」という発問に対して探究していく学習を行った。これまで政治は貴族中心で行われてきたという社会背景を踏まえながら、資料や歴史的背景を根拠に、子どもたちは様々な視点から力をつけた要因を考えることができた。

10月には、第4学年社会科「地域で受け継がれたもの」の単元で、茅ヶ崎の伝統的な祭りである「浜降祭」をテーマに学習を進めた。「浜降祭」で活躍する「太鼓の会」の人々の存在を知り、「自分は太鼓の会に入りたいか、入りたくないか」という問いかけをし、その理由を話し合う中で、太鼓の会を続ける人々の想いに気付き、継承に向けて自分たちができることを考えることを目標としていった。

2月には、第2学年国語科「スーホの白い馬」の授業を公開し、スーホの想いと白馬の願いを読み取らせ、登場人物の行動の理由を読み取る学習を行った。叙述に基づき、様々な視点から出てくる意見をつないだり、深めたりしながら、課題に対する探究を実践していくことができた。

(3) 協議会の様子

協議会では、これらの授業を参観した後に、主に以下の3点について協議をした。

- ① 教材や資料は子どもたちの興味・関心を引き、主体的・対話的な状態を創り出せるものであったか。
- ② 子どもたち同士のつながりがどれほど見られたか。
- ③ 教師側の手立てにより、深い学びが実現できていたか。

話し合いでまとめた資料はデータとして保存し、いつでも振り返りながら、日々の実践に活かせるようになっていく。



3 実践の成果

(1) 教師の変容

子どもたちが多様な考えを持ち、話し合いの土台に乗れるような導入問題を検討していくことは、子どもたちの主体的な“姿”を創り出すことにつながるということが実感できた。また、本時のねらい(授業の本質)に迫るための協同探究の持ち方や繰り返し発問、教師の手立てなどを検討することで、子どもたちの主体的な学びを創り出す姿を具体的にイメージすることができた。

一方で、「対話的な学び」「深い学び」の成果については、より具体的な手段について今後も研究していかなければいけないと感じている。

(2) 子どもの変容

今年度の最も大きな成果として、子ども

たちに「聴く・話す」ことの定着が図れたことが挙げられる。その上で「聴き方・話し方」の指導やルールなどを取り入れることで、子どもたちが安心して対話をできる環境づくりが実現できた。また、子どもたちが多様な考えや意見を持てるような発問を設定したことで、一人一人が「考えたい」「話したい」「聴きたい」ような状態を作り出すことができた。「聴く・話す」こと、適切な「発問」を大切にすることで、より子どもたちの主体的で対話的な姿が見られるようになったと感じている。

4 今後の展開

(1) 今後の研究の方向性

子どもたちが、まず個人の考えを持ち、対話の中で学びを深め、最後は自己省察を通して、自分の学びを確かなものにしていくことが大切だと考える。授業を通して、「深い学び」を実現するためにも、協同探究の中で、本質に迫るための教師側の具体的な手立てや学習方法を見つけていくことを、今後の課題としていきたい。

(2) 課題に対する取り組み

課題としては、教師側の「つながりから生まれる学びの姿」のイメージをさらに焦点化すること、具体的な手立てや学習方法を考えていくことであると考えるため、この点について協議を重ねていきたい。

また、協議会の場面でも、参加者全員が研究の自己省察をする機会を持ち、子どもたちと同様、教師自身も個の学びを確かなものにする時間を大切にしていきたい。さらに、教師同士が積極的な対話を通して、よりよい実践に向けての検討を重ねていけるよう、話し合いの柱をどこに設定していくのかを吟味し、整理していきたい。